

第3期第18回生涯学習センター運営協議会 議事要旨

〔日 時〕2018年3月19日（月）15:00～17:00

〔場 所〕生涯学習センター 学習室2

〔出席者〕※敬称略

委 員：岩本 陽児、太田 まゆみ、大野 浩子、上村 まり、白崎 好邦、島田 忠次、陶山 慎治、
辰巳 厚子、中里 静江、中村 香、前田 美幸、柳沼 恵一
以上 12名

事務局：板橋センター長、小林管理係長、松田事業係長、齊藤主任（記録）

〔欠席者〕0人

〔傍聴人〕2名

〔資 料〕

- ・第3期町田市生涯学習センター運営協議会報告書
一地域における学習支援のための生涯学習センターの役割と機能について一

会 長：第3期最終回の第18回生涯学習センター運営協議会を始めたい。

先に2. 報告事項の（1）センター長報告を終えてから、議題1. 生涯学習センター運営協議会報告書についてと、その他の報告事項を行い、2年間のまとめをいたしたい。

2. 報告事項

（1）センター長報告

・皆様、2年間ありがとうございました。間もなく完成する「第3期町田市生涯学習センター運営協議会報告書」については、今後の教育プランや生涯学習推進計画に出来るだけ反映していきたい。

・2017年度課の仕事目標の主な取組みについて。地域づくり型生涯学習の推進と各事業の地域展開として、鶴川地区協議会との連携講座、まちチャレの地域開催（成瀬と本町田）、子育て推進課（保育園）との連携でクリスマスイベントを行った。生涯学習の促進と庁内連携体制の強化については、さがまちコンソーシアムを活用して、保健予防課との「食育フェア」、ひなた村とのPR動画の作成、藤の台団地の活性化事業、自殺予防防止事業の4件が行われた。どれだけ大学の活動等を各部署に伝えていけるかによるが、今後も今年度と同じか、5件～10件のペースで推進していけたらと考えている。

・2018年度課の仕事目標について。仕事目標の主な取り組み項目として、まず、現行の生涯学習推進計画の総括と、次期計画の策定を来年度進める。地域づくり型講座の実施では鶴川地区協議会以外の新しい地区協議会との連携も検討する。さがまちコンソーシアムと連携した地域学習の支援についても引き続き進めたい。社会的困難を抱えた方への学習支援の必要性から、障がい者への支援のためにまずは職員の研修を行う。また、引きこもり当事者のための定期的な話し合いの場の提供を進めていきたい。短いスケジュールの中で策定しているが、運営協議会の議論も踏まえて決定した。

・2018年度の仕事目標の「課の使命」は「市民が生涯にわたって、いつでもどこでも自由に学び続け、支え合うことが出来るよう支援します。」とした。これは現在の生涯学習推進計画の基本目標に合わせた表現に変更したものである。

議題

1. 生涯学習センター運営協議会報告書について

会 長：各委員の方々から様々なご意見をいただき、まとめるのは大変な作業でもあったが、一定程

度皆様のご意見を盛り込むことが出来たと思う。

※『第3期町田市生涯学習センター運営協議会報告書―地域における学習支援のための生涯学習センターの役割と機能について―』の読み合せによる最終確認を行った。

(確認事項)

- ・委員の意見については別表①②まとめた。委員意見一覧②の「ことぶき大学と市民大学の機能強化への取組みの方向性について」のA～Gの意見については、各委員の意見であることがわかるような表記に訂正する。
- ・ことぶき大学や市民大学については是非、次年度以降具体的な改善策に結びついていくことを期待する。
- ・この報告書が次期教育プランや生涯学習推進計画に適切に反映することを期待する。
- ・次年度以降は地域連携だけでなく、学校との連携や学習権の保障も課題となると思われる。その点について、第4期運営協議会で引き続き検討されたい。

会 長：各委員から意見・感想をお願いしたい。

(主な意見・感想)

- ・来年度以降の運営協議会のあり方や会議の進め方について話し合った方がいい。
- ・(質問) 報告書がどのように生かされるのか。
→(回答) 生涯学習推進計画、教育プランに反映させていく。
- ・報告書はホームページに掲載してもらいたい。また、報告書の中には、会議の履歴と委員の一覧を載せたほうが良い。
- ・スタッフィングや予算が足りないことを説得する道具としてこの報告書を使っていたきたい。
- ・各委員は色々なところでこの報告書をPRしていくのが良い。
- ・報告書を生かすために運営協議会はあるべき。
- ・市民大学の改革に踏み出してもらいたい。次年度のプログラムに反映させるためには、4月には別に委員会を立ち上げて協議するべきである。
- ・運営協議会の役割や、2期と3期の流れを勉強する機会があったほうが良い。それを踏まえて中身については第4期のやり方については第4期の方に考えていただければ良い。
- ・市民大学とことぶき大学について今期も課題として取り上げられている。課題は明らかになっており、改革への意見は盛り上がっている。改革するためには市民大学改革委員会のような運営協議会とは別組織で改革するべきである。
- ・力量にあったものを考え具体的に一歩進めていく必要がある。

会 長：市民大学やことぶき大学の再編について、事務局より現状について報告をお願いしたい。

事務局：ことぶき大学については、皆様のご意見を踏まえて、「後期」のプログラムをこれから決める。6月までには決定するが、現在「地域で活躍するアクティブシニア」について、学びを通して支援していく方法を考えている。そこで、運営協議会とは別に、講座の企画委員という形の組織をつくることを検討している。

市民大学については、陶芸の講座は終了したが、博物館との共催ということでの活用を考えている。プログラム委員についても改変した。市民大学について検討するための何らかの組織が必要であるという話は以前から出ているが、誰をどう人選するのか正直決めかね、二の足を踏んだ状態である。プログラム委員や運営協議会の委員の方々にもご意見を出していただけたらと考えている。

ことぶき大学の後期のうち1講座をパイロット版として実施したい。講座を開きながら、アクティブシニアの皆さんがどのように地域で活躍できるか、人間関係を作れるかといったことを考え来年度を見通すような講座の作り方を考えている。

(主な意見・質問)

- ・(質問) 60歳以上であることについて。年齢の区別は差別という意見もあるが、年齢条項は撤廃できるか。
→(回答) 補助金をもらっているので、65歳、70歳以上等の何らかの年齢制限は必要。他市町村に問い合わせたところ、「ことぶき大学」を実施しているところは実はまだある。事業費の2分の1の補助金が出るのでこの意義は大きい。市民大学と統合してしまうと補助金は出なくなる。また、ことぶき大学は人気が高く、毎回抽選となる。年齢条項を外すと、抽選に当たりにくくなるという理由でクレームが来るだろう。
- ・ことぶき大学は補助金が出るのでそのままでもいいのではないか。
- ・アクティブシニアに関する講座を作りたいのだが、それをことぶき大学に入れてみてはどうか。1コースを設けて、統合する部分は統合していくというのでどうか。特定の講座によって60歳以上等、年齢を制限する。
- ・調べ学習は能動的に学習できる。中野区の生涯学習大学は55歳以上が対象である。働いているうちから学ぶ人もいる。予算も取っているので工夫は出来ると思う。市民大学についても卒業した人がいかに地域で力を発揮してもらおうかという出口戦略が必要。シニア向けの1講座も必要。シニアの方が、学んだことを次に活かすための工夫は行った方がいい。
- ・プログラムの作り方についてだが、職員が関わらなくても出来ると思う。今までの講座をみていると、振り返りの会への出席者が多くないが、つまり面白くないということ。次へのアクションにつながる気分になるように、もう一工夫することが必要。
- ・ファシリテーターを養成する講座を開催してもらいたい。

事務局：2018年度は生涯学習推進計画の作成に労力をかけることになるのでその点を考慮いただきたい。

2. 報告事項

(2) 生涯学習審議会の議論について

委員：審議会のレジメを作成したので参照されたい。氏名入りのため、取扱いにご注意されたい。

(3) 東京都公民館連絡協議会の活動について

委員：第54回東京都公民館研究大会を振り返って。

- ・前半に全体会の基調講演 テーマは「東京の公民館の未来～持続可能な地域、次世代の学びについて」。講師は博物館についてのスペシャリストで博物館活動をしている高尾戸美氏。小平市の六都博物館の運営に関わっている。毎日子供向けのイベントを行っており、子ども達が将来に向けて何かを感じるようなイベントの開催は、生涯学習センターだけでなく、博物館でも行っていることが認識できた。アンケートでも概ね良かったという意見が多かった。博物館に内容が偏っているという意見もあった。
- ・後半は4分科会に分かれ、課題別集会を行った。
- ・委員部会では第4課題別集会公民館を担当したが、東京学芸大学の倉持伸江先生をお招きした。地域と公民館が密着した事例発表があった。
- ・地域と公民館を結ぶには職員のコーディネーター力が必要。市民と公民館運営審議のつながりも大切。
- ・大学との連携では学生の社会経験につながるような事業の提案ならよい。
- ・課題別集会についての課題として、2:30～4:30の開催時間が適当かどうかという意見もあった。

委員：第1分科会は佐藤一子先生を講師とした「公民館がまちをつくるー公民館が生み出す地域ー」というテーマであった。公民館が沢山ある地域での公民館活動に関する話で参考にはなったが、人口8万1000人という狛江市に対し、鶴川地区だけで9万3000人いるので規模

が全然違うという点が印象的であった。

会長：第2分科会は「公民館の活用をみつめなおす。～住民とともに公民館を評価する実践」というテーマであった。運営協議会でも行っている事業評価のことである。この「評価」は法律的背景があり、社会教育法、地方教育行政の組織及び運営に関する法律等で「自ら点検及び評価を行ない、その結果を地域住民に対して公表するように努めるものとする」という努力目標であるということを知った。また「評価」は、やはり公民館の活動には馴染まない部分もあり、単に有効性・必要性・効率性だけだと、その先にあるのはコスト削減と行政のスリム化しかない。数字で計れない部分を評価することを考えていかないと、いたずらに予算が削られる方向に導かれかねない恐れがある。評価の本来の目的である、より良い事業を創造するため、自己点検が必要で、地域の住民・職員・市民の代表である運営協議会等の委員による三者のディスカッションによって進めるべきであるという内容であった。

事務局：東京都公民館連合協議会の定期総会が4月20日に西東京市の柳沢公民館で開催される。センター長、職員、運営協議会委員2名に出席していただく。

委員：少し時間を頂いて、ここで情報提供をいたしたい。

文部科学大臣の諮問機関に中央教育審議会というのがある。社会教育に関わっては生涯学習分科会が置かれている。昨年の2月ぐらいから政府のレベルで地方分権改革に関する提案を募集した。そこで、博物館・文化財に関する所管が現在、教育委員会と定められているが、自治体の条例で自由選択できるようにということを求める複数意見があった。昨年暮れの平成29年の地方からの提案等に関する対応方針についての閣議決定で、博物館については、まちづくり行政・観光行政・その他の一般行政分野との一体的な取組をより一層推進するために、議論をして平成30年度中に結論を得、その結果について必要な措置を講じることを決定した。2月に入り、中教審の生涯学習分科会で「公立社会教育施設のあり方等に関するワーキンググループ」が設置された。2月22日に、その第1回会議が行われた。検討内容は二つ、①公立博物館について地方公共団体の判断で条例により地方公共団体の長が所管する事を可能とすることについて検討する。②博物館以外の公立社会教育施設の所管のあり方について検討する。審議が既に始まっており、全国の博物館や全国公民館連合会、日本図書館協会もヒアリングが予定されており、4月下旬の第5回で論点整理を行ない、一定のフィードバックを生涯学習分科会に行うという段取りである。教育行政に関しては、4年に1回の首長の選挙に振り回されることのないよう、相対的ではあるものの、政治的勢力とは一定の独立の地位を与えるというのが第二次大戦後の従来からの制度設計であったが、まちづくりやその他の目的のために、まずは博物館を市長・町長が管理することで一体的な管理が可能になり便利であるという議論がどうやらまかり通りそうである。そして、次のステップとしては図書館・公民館が首長部局に移管される可能性が非常に高まっている。これに関して日本図書館協会は、以前から図書館は公立であるべきという見解を出している。日本博物館学会については、事務局に問い合わせたところ、学会としての統一意見はもたないとの事である。以上現状報告であるが、文部科学省のホームページからこの後の会議の傍聴が出来るのでぜひ申し込んで、どのような人がどのような議論をしているかを見ていただくと良い。資料が手元にあるのでご希望の方にはお渡しできる。都公連でどのような議論がなされるか確認していきたい。パブリックコメントのようなものはあると思う。

事務局：博物館を文部科学省から文化庁に移すというパブリックコメントは行われる。

中村：パブリックコメントでは意見を反映するには間に合わないことが多い。

社会教育を充実させるためには、運営協議会のあり方が大事である。教育委員会が教育行政として独立して存続する意義があることを、今回の報告書等を活用して広めていかなければいけない。また、運営協議会は職員を応援し、より良くしていくような働きかけをしていかなければいけない。

会長：2年間のまとめとして感想をお願いします。

(委員の感想)

・学生として参加したが、学生では味わえない議論に参加できた。わからないことも多かったが、自分でも調べることで進歩できた。「学び」とは、自分で意思を持って学んだことが、つながり広がっていく事が大切だと思ったので、今後の生涯学習センターにも期待したい。

・社会教育には無関係の人間であったが、この2年間で多くのことを勉強させてもらった。生涯学習というのが長年非常に貴重な役割を果たしてきており、今後も重要な役割を果たしていくものと理解した。社会は急激に変化しているので、従来の価値観や尺度ではつじつまの合わない時代となっている。今の日本の閉塞感に満ち溢れ、若者が将来に希望が持てない社会の中で、「何を学びどう対応していくのか」という観点が非常に重要だと感じた。時代の流れを汲んだ学習ニーズの把握や管理がとても重要だと感じた。

・審議委員を2年経験した後、こちらを2年間務めさせていただいた。運営協議会の立ち位置が最初よくわからず、わかりかけてきた頃に終わり残念だった。3月15日、学生活動報告会に出席したが、学生のアートサークルや地域での活動の仕方についての報告を聞いて、大変たくましく感じた。このような活動をしている人々もいたのだと、知らないことが多いことを知った。我々の議論の上を行っている部分もあったので、我々委員は、ここでの会議だけではなく、事業なり報告会なりの現場を見る必要があると感じた。

ぜひ次期委員の方には実際に様々な事業や活動を見ていただいた上でご議論されたい。

会長：今期で終了となる委員の方々にも、今後も引き続き生涯学習センターの仲間として見守っていただき、ご相談にのって頂きたい。